

デンマークに学ぶ高齢者福祉フォーラム 2014
リレートーク

小さくても輝く町づくりをめざす

デンマーク高齢者福祉の旅
北海道 訓子府町 町長：菊池 一 春

★日本の社会福祉制度を見つめてみたい

こんにちはご紹介いただきました北海道訓子府町の菊池一春です。

私は第9回（2000年）と第12回（2003年）の2回参加させていただきました。2000年は日本の社会福祉制度が介護保険制度に象徴されるように「扶助から選択へ」と大きな変化へ舵を切った年でもあります。北海道と関わりが深い内村鑑三のデンマーク「世界一豊かな国」デンマークに学び日本の社会福祉制度を見つめてみたいと思いました。

2003年は豊かな国のデンマークを妻と共に学び共有したい思いから参加しました。

★まだ引退は早すぎる

今回の「高齢者福祉フォーラム 2014」へ参加した理由は2点あります。

一点目は娘・さやかがデンマーク在住の娘・さやか（第9回参加、旧姓海老原さやか）さんとワインを飲みすぎ道に迷い行方不明になり夏代さんに多大なるご迷惑をおかけしましたのでお詫びとお礼を申し上げに来ました。

二点目は訓子府町が2016年に開拓120年を迎えます。私の3期目の政策として町民を訓子府版「デンマーク高齢者福祉視察の旅」を実現し、デンマークへ派遣したいと考えています。

夏代さんの引退や腰痛説が北海道にも届きますが何とか力を貸していただきたいとお願いにきました。



夏代さんと私は同期生、まだ引退は早すぎるし腰痛を乗り越えてほしいと願っています。

★自立した自治体運営をめざしたい

デンマークから帰国して4年後、私は人口5,400人の農業を基幹産業とする訓子府町の町長になりました。町長就任時の町の財政は厳しく借金は特別会計も含めて100億円程度、預金は17億円、実質公債費比率20パーセントを推移していました。

先ほどの大坪日野市長のお話を聞くとお金のある自治体は羨ましくなります。国の経済政策も活用し町の財政健全化政策を町民と議員、職員が協力し学校の耐震化補強などをいち早く実施しました。

財政の立て直しを図り基金は40億円に達し実質公債費比率は10パーセントまで下がりました。向こう10年間は自立した自治体

運営が可能にまで達し国や北海道にも言うべきことは言える状況に近づいてきました。

★すべての町民にやさしい町づくり

憲法や地方自治法が求める町民の元気「すべての町民にやさしい町づくり」を政策の柱に掲げ、様々な福祉政策を実現してきています。その政策の根底にはいつもデンマークで学んだ高齢者福祉や幼児教育、学校教育の理想があります。時間の関係から詳しく申し上げることができませんがその一部を紹介させていただきます。

①子ども達の医療費無料化です。

現在は乳幼児から小学生までの医療費の無料化を進め、数年後には中学生まで、義務教育の医療費無料化をすすめます。すべての子ども達が安心して病院にかかることができるのが基本と考えるからです。

②介助員も同乗し送迎を

私どもの町から盲学校や聾学校に通学するには帯広市や旭川市にいかなくてはなりません。子ども達は寄宿舎にはいますが金曜日は親たちが学校へ迎えに行き、日曜日には学校へ送り届けます。片道 100 キロの送迎は親達にとって過度の負担が強いられます。

町では年 6 回ほど福祉タクシーを借上げ、介助員も同乗し送迎を行い徐々に回数を増やそうとしています。

③児童館と学童保育の両面を備えた施設

昨年春に児童センター「ゆめゆめ館」がオープンしました。児童館と学童保育の両面を備えた施設です。床はヒノキ材、天井の梁は町有林カラ松材をふんだんに使った施設は子ども達の人気が高く訓子府小学校児童の 70 パーセントが利用してい

ます。もちろん利用料金はほとんどかかりません。



④自然エネルギーを活用した施設の検討

来年建設に向けて町立「認定こども園」の準備を進めています。幼稚園と保育園の壁を取り払う地元の無農薬野菜をふんだんに活用した給食など保育士や幼稚園教諭が話し合いと学習活動、さらに先進地視察を行い 2,000 m²、8 億円の予算を投入し、ここでも木材を多く、そして自然エネルギー活用の地下熱を活用した施設の検討を進めています。

広大な面積と女性の労働、働きやすい環境づくりの多くはデンマークから学ぶ事ができました。

⑤高齢者、障がい者、難病疾患の方々に目を向けます

我が国の市町村合併が最も多く進められたのは広島県です。大きくなった町や村で大切なのは「足の確保」交通手段の確保です。広島県ではデマントタクシー・乗合タクシーが運行されています。私どもの町ではタクシー会社が 1 社あり町民の交通機関として役割を担っています。

私どもの高齢者は 75 歳を節目に運転免許を手放します。75 歳以上の高齢者を対象に「タクシーサービス」をはじめました。基本料金の 520 円を支払うと町内のどこにでも出かける仕組みです。

もちろん 16 キロ離れた北見市や隣町の病院や買い物に出かける場合は路線バス片道 590 円の料金ですが 300 円で利用できます。お年寄りにはものすごい人気なのは言うまでもありません。

その他にも障がい者や難病疾患の方々、高校生の通学利用サービスなどがあります。

オンやヴァイオリンでデンマークの高齢者達と踊ったフォークダンス等々、今も忘れることができません。

⑥必要な公共施設はお金がなくても進める

高齢者福祉施設、特別養護老人ホームの待機者は 60 人ほどおられます。緊急を要する在宅の方々には 10 人ほどおりますので今年秋の完成に向けて特別養護老人ホーム 10 床の個室とショートステイ 2 床の増床とデイサービスのスペースを広げます。

先ほど説明した公立の「認定こども園」建設や「特別養護老人ホーム」増床も国の補助金は全くないのです。でも必要な公共施設はお金がなくても前に進めなければなりません。

★多くの町民をデンマークに

お話ししたいことは沢山ありますが、小さくても輝く町づくりの要にはいつもデンマークに学んだ数多くの福祉政策があります。

我が国の国民生活、福祉政策の現実とデンマークの社会保障政策とのギャップに打ちのめされる事も数多くあります。でも豊かな産業政策を基礎に福祉・教育政策の実現、住民本位の地方自治体の具現化こそが私に課せられた課題と思えてなりません。

そのためにも多くの町民をデンマークに派遣し、町民の目でデンマークの福祉や教育を実際に見てほしいと思うのです。

森の幼稚園で一緒に歩いた笑顔の子ども達、思いっきり子ども達と転がりながら遊んだ保育園、マウリッツ&キャステンご夫妻と森に出かけ大勢の高齢者が奏でるアコーデ